



佐渡を世界遺産に

「金と銀の島、佐渡 — 鉱山とその文化 —」

# 世界遺産暫定一覧表

## 記載決定！

このたび、世界文化遺産特別委員会の審議において、当市および新潟県が提案してまいりました「金と銀の島、佐渡—鉱山とその文化—」が世界遺産暫定一覧表へ記載されることが決定しました。

市民の皆さまのご理解とご協力に感謝いたします。

今後は、さらなる調査と保護活動に邁進し、一日も早い本登録の実現をめざします。また、より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



おおだてたてこう  
**大立竪坑** 1877年日本最初の欧米の技術による竪坑（斜坑・横坑などに対し、垂直に掘り下げた坑道）が開削され、1989年の休山まで使用された。

世界遺産とは、1972年にユネスコ総会で採択された「世界遺産条約」の「世界遺産一覧表」に記載されたもののことで、「文化遺産」「自然遺産」「複合遺産」に分類される、世界的に価値のある資産です。

世界遺産に登録されるためには、まず文化庁がとりまとめる「世界遺産暫定一覧表(暫定リスト)」に国内の候補として記載される必要があります。このリストの中から、国がユネスコに世界遺産登録の推薦を行い、その後世界遺産リストへの登録の可否が決定します。

### 世界遺産登録へ大きな一歩

9月24、25日はトキの試験放鳥で秋篠宮ご夫妻をお迎えして、緊張しっぱなしの二日間でしたが、翌26日にはそのご褒美なのでしょいか、ユネスコ世界遺産の国の暫定一覧表記載に佐渡の金銀山が決定したというビッグニュースが飛び込んできて、市役所は上を下への大騒ぎでした。

佐渡市では合併してすぐ新しい市の目指すべき目標として、トキの試験放鳥、空港建設と並ぶビッグプロジェクトとして、県知事の前向きな姿勢の下、佐渡金銀山の世界遺産登録に向けて全力で取り組んできました。その中で昨年は先行する島根の石見銀山は本登録が成りましたが佐渡は暫定一覧表記載見送りで、島民の中に目標を見失ったような脱力感も漂い、内外から心配の声が上がっていました。最初の挫折から一年がたち、県の文化行政課始め市の教育委員会の気を取り直しての新たなチャレンジが、この成功を導いたものと考えます。

佐渡市では合併直後から環境基本条例の制定を行い、昨年からは景観条例制定へ全力を挙げて作業中ですが、このような地道な対応も評価されたのでしょうか。

暫定一覧表記載の後には、本登録という高い壁が立ちふさがっています。暫定一覧表記載までいってもその後息切れた候補地も多いことから気がかりですし、まずは条件としてついている石見の協力が得られることが大切です。また今回の決定により13か所となった暫定一覧表の中で、ユネスコは今後審査が厳しくなることから、国が佐渡を選んでくれるかどうか心配の種です。

本登録となれば、保護に向けての期待や波及する経済効果が極めて大きいことから、今回の暫定一覧表記載の知らせはトキ放鳥に続く朗報で、佐渡市民にとっては「盆と正月が一緒に来たよう」の声があがる喜びです。

新市となって早5年、合併して島挙げて人も物も集中して初めて成し遂げたこの成果に、今後県とともに大車輪で、関連する資産の調査や保護活動を進め、市民の声をバックに必ず早期の本登録を勝ち取るつもりです。島民の皆さまのご支援をお願い申し上げます。

佐渡市長 高野 宏一郎